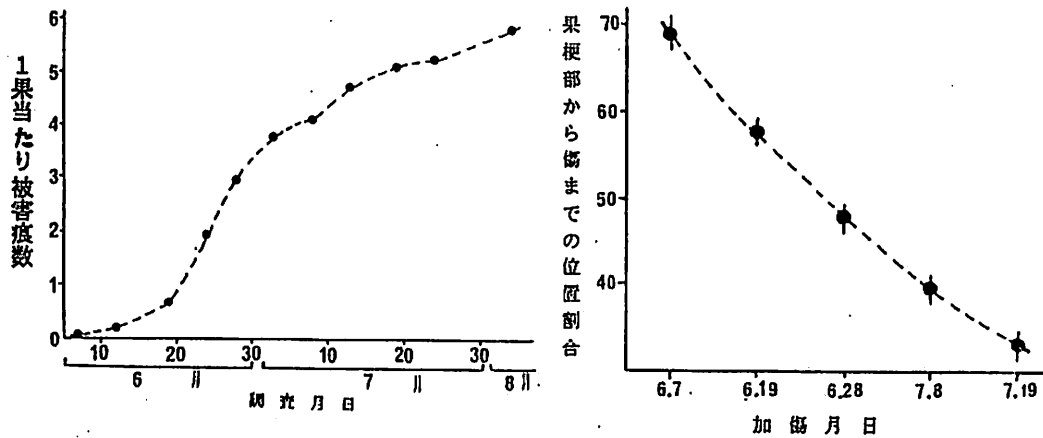


課題名	106 カキ果実害虫類の発生生態と総合防除 (1) カキクダアザミウマによる果実加害時期の推定	分類	②
試験研究年次	1年(完了)		
I 目的 カキ果実に対するカキクダアザミウマの加害時期を推定し防除適期を明らかにする。			
II 試験方法 1 カキクダアザミウマによる果実の加害痕の発消長 (1) 試験場所：筑紫野市吉木 農総試験場内圃場 (2) 供試品種・樹齢：殺虫剤無散布“松本早生富有”“西村早生”“伊豆”各5年生 (3) 調査方法：225果をマークし平成1年6月7日～8月3日までそれぞれの果実について加害痕の発生状況を調査した。 2 加傷による加害時期の推定 (1) 試験場所：筑紫野市吉木 農総試験場内圃場 (2) 供試品種・樹令：“松本早生富有”5年生、3樹を供試 (3) 調査方法：50果についてヘタと果実の接している部分4カ所を針で傷をつける処理を6月7日、6月19日、6月28日、7月8日、7月19日の5回行った。 調査は11月に収穫したそれぞれの果実について、果梗部から果頂部までの距離をA、果梗部から傷までの距離をBとし、100B/Aにより傷までの位置割合を算出した。 3 果実上における加害痕からの加害時期の推定 試験方法：農総試験場内圃場、甘木市及び吉井町の現地圃場で収穫期に採集したカキクダアザミウマの被害果について上記と同様の方法で調査した。			
III 主要成果の概要 1 カキクダアザミウマによる果実の加害痕は6月上中旬～8月上旬まで発生し、特に6月下旬～7月上旬にかけての加害痕が多い。 2 カキクダアザミウマの果実に対する加害時期を推定するため、時期別にヘタ部直下に傷をつけ、収穫時にその傷の移動位置を果梗部から果頂部までの長さとの割合で示すと以下のとおりである。 6月上旬 — 約7割 6月中旬 — 約6割 6月下旬 — 約5割 7月上旬 — 約4割 7月中旬 — 約3割 3 平成1年のカキ果実上における加害痕の位置を測定して、上記により加害時期を推定すると、6月中旬～7月上旬頃の加害が多い。これは実際の被害発現時期とよく一致しており、果梗部から傷までの位置割合を調査することによって加害時期を知ることができる。			

IV 主要成果の具体的データ



第1図 カキクダアザミウマ加害痕の発生時期 第2図 加害時期別位置割合

加害推定時期	農総試験場内ほ場 (%)				甘木市現地ほ場 (%)				宮井町現地ほ場 (%)			
	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
6月7日以前	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月7~19日	10	20	30	40	10	20	30	40	10	20	30	40
6月19~28日	20	30	40	40	20	30	40	40	20	30	40	40
6月28~7月8日	30	40	40	40	30	40	40	40	30	40	40	40
7月8~19日	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
7月19日以降	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

第3図 カキクダアザミウマ加害痕の発生時期別割合

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 カキクダアザミウマに対する防除時期を知る資料となる。
- 2 “松本早生富有”と果形が異なる品種では、前記の加害痕の位置からの加害時期推定法は適用できない。
- 3 遅い時期までの加害が見られる年や、発生が多い園では5月下旬~6月上旬の防除とともに6月下旬の防除も行う必要がある。
- 4 カキクダアザミウマの生態については昭和61年農業関係の試験研究成果また防除については昭和63年の同資料を参照の事。

VI 今後の研究上の問題点

さらに効率的な防除法の検討

VII 資料名

- 1 63年度、平成元年度福岡県農業総合試験場果樹病害虫に関する試験成績書
- 2 63年度、平成元年度農水省落葉果樹試験成績概要集 (虫害)